

平成 26 年度岩手県政策評価委員会

(開催日時) 平成 27 年 2 月 10 日 (火) 14:30~15:20

(開催場所) 盛岡市勤労福祉会館 5 階 大ホール

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 平成 26 年度の政策評価等の実施状況及び各専門委員会の開催状況等について
(報告)

(2) 平成 26 年度の政策評価結果等の政策等への反映状況について (報告)

(3) 復興の進捗状況について (情報提供)

4 閉 会

委員

倉島栄一委員長、西出順郎副委員長、秋山信愛委員、泉桂子委員、宇佐美誠史委員、
小山田サナエ委員、河野達仁委員、越谷信委員、斉藤徹史委員、佐々木幹夫委員、
島田直明委員、平井寛委員、前川敬子委員、松木佐和子委員、山本清仁委員

1 開 会

[配布資料確認]

[事務局から委員 20 人中 15 人の出席により会議が成立する旨の報告]

2 挨 拶

○政策推進室菊池評価課長 それでは、開会に当たりまして齋藤政策地域部長から御挨拶を申し上げます。

○齋藤政策地域部長 皆様、こんにちは。ただいま紹介のありました齋藤でございます。本日は、足元の悪い中、またこの冬一番の寒気の襲う中、遠いところからお越しいただきまして、大変ありがとうございます。

皆様方におかれましては、日頃から県政の推進、特に政策評価といった点で多大な御貢献をいただいております。昨日でございますが、岩手県の平成 27 年度当初予算の知事の記者発表を行ったところでございます。総額 1 兆 1,112 億円、大変な額の予算でございます。ただ、内訳を見ますと 4,500 億円が復興関係の予算ということで、これはほとんど国からの交付金であり、あるいは交付税であり、使途の決まったものでございまして、やらねばならない、非常に義務的な要素の強い事業のものでございます。

実態としますと残りの 6 千数百億円で、普通の事業をこなしていかなければならないわけでございますが、予算の自由度も低く、また資源に乏しいということで、私たちは P D C A サイクルをしっかりと回して、どうやったら効果的な事業ができるだろうか、それから

乏しい県のお金をどうやったら効果的に使うことができるだろうか、これが一番肝心なところでございます。

そうした意味で、政策評価というのは非常に大事な役割を担っております。これから会議の中でも今年度の状況、あるいは新年度の状況をお伝えする予定でございますが、私たちはまず新しい施策を打つときに、これがどれだけ人の役に立つのだろうか、あるいはどんな影響が出るのだろうか、やはりこういうことを追求した上で新しい施策に取り組んでいく、これの積み重ねで私ども自治体としては乏しい予算を何とか使っている状態でございます。そうした意味では、本当に皆さんのお力におすがりして、できるだけ県民のためになる効果的な事業を少ない予算でいっぱいやると、こういうことをやって参りたいというふうに考えてございます。

震災後、この3月11日で丸4年を迎えます。本当にあっという間でございますが、まだ道半ばという感じがいたします。知事が平成27年度当初予算を本格復興邁進予算と、邁進というちょっと難しい字を当てておりますが、こういうふうに名づけています。8年間の復興計画の折り返し点に当たります。多分沿岸にいらっしゃった方々はおわかりでしょうが、沿岸に行きますとまだ土盛りをしきりにやっている最中でございます。東京のほうに行きますと、もう震災の復興作業は終わっただろうというふうに現場を見ない方はおっしゃるのですが、ようやく土盛りが終わって、今年の後半からいわゆる建物ですね、我々は上物と呼んでいるのですが、これが建ちまして、本当に忙しい時期が来るのは今年の後半からでございます。折り返し点、8年間の計画でございますが、残りの4年間で何とか復興を形にしたいというふうに考えております。

いずれ人も足りない、あるいはお金も足りないということでございますが、この評価制度というものを通じまして、本当に効率的な施策の打ち方というものに努力して参りますので、どうか我々を叱咤激励あるいは御鞭撻いただくということで、今日も忌憚のない御意見をいただければと思います。本日はどうもありがとうございます。

○菊池評価課長 大変申しわけございませんが、齋藤部長におきましては他の用務がございまして、ここで退席させていただきます。

3 議 事

(1) 平成26年度の政策評価等の実施状況及び各専門委員会の開催状況等について (報告)

○菊池評価課長 それでは、早速議事に入って参ります。

議事の進行につきましては、倉島委員長にお願いいたします。

○倉島委員長 年度末の大変な中、今お話にありましたように大変寒い中、御苦労さまです。また、この会場がレトロで、また寒々としておりまして、これから専門委員会等も続きますので、どうか風邪など引かないように、また活発な議論をお願いしたいと思います。

それでは、会議の次第により議事を進めて参ります。まず、議事(1)、平成26年度の政策評価等の実施状況及び各専門委員会の開催状況について、事務局から御説明をお願い

いたします。

〔資料No.1「平成26年度の政策評価等の実施状況及び各専門委員会の開催状況」により政策推進室菊池評価課長が説明〕

○倉島委員長 ただいまの事務局の説明について御質問等はありませんでしょうか。いかがでしょうか。

実施状況ということですので、特にありませんでしょうか。

「なし」の声

(2) 平成26年度の政策評価結果等の政策等への反映状況について（報告）

○倉島委員長 それでは、進めさせていただきます。

次に、議事(2)、平成26年度の政策評価結果等の政策等への反映状況について、事務局から説明をお願いいたします。

〔資料No.2「平成26年度政策評価結果等の政策等への反映状況の概要」及び参考資料No.1「政策評価結果の政策等への反映状況（個別調査）」により政策推進室菊池評価課長が説明〕

○倉島委員長 ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明について御質問等をよろしくお願ひします。いかがでしょうか。

ちょっと1つ、日頃、専門委員会に余りなじみがない、政策評価結果の反映状況というところ、資料No.1の1ページの(2)、主な反映内容の「I産業・雇用」の拡充のところに研究開発に対する支援を行うため自動車関連産業創出推進事業費ということを拡充されていると。また、参考資料No.1の2ページにも詳細に自動車関連産業の生産拠点化を促進することを目的とし、研究開発というものが出てくるのですけれども、具体的にどのような事業なのか。申請された事業なのか、それとも補助事業なのか、具体的な事業の形態ですか、事業の実施形態を教えてくださいと思いますけれども。

○商工企画室阿部主査 この自動車関連の事業につきましては、県内の自動車関連企業様が研究開発をする際の設備や機器に対して支援する事業を平成27年度に創設するものでございます。

○倉島委員長 これは企業から申請があつて採択云々は県でお決めになるという、そういう形でいいのですか。

○阿部主査 事業の進め方は、これから担当課のほうで整理することになると思いますが、ほかの研究開発関係以外の補助メニューがございまして、それを見るとそういうふうな形

になるのではないかと思います。

○倉島委員長 例えば大学ですね、県立大学とか岩手大学、こういうところが入る可能性というのはないのですか。やっぱりそういう形ではない、産学連携というような形ではないと考えてよろしいですか。

○阿部主査 済みません、そこまでは承知していませんが、今までですと企業、あるいは企業グループが対象になるかと思えます。また、産学で研究する場合は、これは自動車に限らずですが、別の補助メニューもございますので、恐らく今回のこの事業につきましては企業が対象ではないかと思えます。

○倉島委員長 ちょっと頭の中に今県立大学でやられている、5年ほど前ですかね、次世代自動車の、ちょっとはっきり覚えていないのですけれども、そんな事例が県立大学さん中心にやられたような記憶があって、お聞きしたわけです。

ほかにいかがでしょうか。

「なし」の声

○倉島委員長 ほかの専門委員会のところで何か、自分の専門委員会は大体知っていると思うのですけれども、何かわからないというか。はい、よろしくお願いします。

○前川委員 先ほど予算が決まって、復興関係と普通の事業に振り分けてという話がありましたけれども、大規模事業評価のほうの下の方のところでは高田松原津波復興祈念公園広域公園整備事業というのが、復興関係と予算の振り分けの中ではどういうふうに、これは一緒ではないのですよね。復興関係は復興関係でまた別の予算、評価の対象というか、別になっているのではないかなと思っているのですけれども、予算に関してもそのようになっているのかなと思うのですが、ここでは県民の、ほかの被災地ではないところの支援学校であるとか、療育センターの整備事業とかと一緒に組み込まれているのはどうしてかというふうにちょっと不思議に思ったのですが、いかがでしょうか。

○菊池評価課長 ここで書いているのは大規模事業評価を実施したものでございまして、原則として、災害復旧等は評価の対象といたしておりません。大規模事業評価や、公共事業評価は、ある程度時間がかかりますので、震災関係の復旧事業の評価を行うことによって時間を要するというのは本意ではございませんので、基本的に災害復旧の部分は評価の対象としていません。ただ、復興祈念公園は被災地ということではございますが、新しくつくるといって大規模事業評価の対象といたしまして、今年は基本構想を策定していく段階で評価を行って、大規模事業評価専門委員会のほうで審議いただいたということでここに載っております。

予算の話もございましたが、先ほど部長が1兆円余りの予算、そのうち震災分が幾らというふうに申し上げましたが、あくまでも県の予算とすれば1つでございまして、その中

の区分といいますか、色をつけたときに震災分が幾ら、通常分が幾らという整理をしているものでございます。

○倉島委員長 復興祈念公園に関しては、大規模事業評価委員会にかかっておりますけれども、まだ基本構想の段階で、とにかく明確なものというのがないところかなど。今のところ進めていただきたいと、そういう結論でした。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

「なし」の声

(3) 復興の進捗状況について（情報提供）

○倉島委員長 それでは、次に(3)の復興の進捗状況についてですけれども、復興計画と政策評価等の対象としている、いわて県民計画第2期アクションプランとは密接な関係があることから、この委員会でも機会があるごとに復興の状況等について県から説明をいただいているところです。

昨年度のこの委員会において、第2期復興実施計画に関する説明をいただきましたけれども、今回は復興の状況について説明いただくこととしております。

それでは、復興局の菊池推進協働担当課長、よろしく申し上げます。

〔別冊資料「いわて復興の歩み」により復興局復興推進課菊池推進協働担当課長が説明〕

○倉島委員長 ありがとうございます。ただいまの説明について御質問等ございましたらお願いします。

はい、どうぞ。

○小山田委員 5ページ目と21ページ目なのですが、21ページのほうのデータは9月30日現在ということで、5ページ目のほうのデータは3月31日現在ということで、5ページ目のほうのデータは9月30日のものは載せられなかったのでしょうか。

あとは、今最後に説明いただきましたけれども、5ページ目の3月31日というのはちょっと古いといえれば古いデータになると思うのですが、この辺の最新のデータというものはホームページのほうで確認することはできるのでしょうか。

○菊池推進協働担当課長 まず、4ページ目、5ページ目は確かに古いものなのですが、この冊子は第1期復興実施計画の取組を中心にまとめたものですので、4ページ目、5ページ目は第1期までの進捗という形で区切らせて掲載させていただきました。21ページは今後の話ですから、この資料を作成する時点での直近のデータである9月末時点での見通しを掲載させていただいております。

また、進捗状況等につきましては、刻々日々変わっておりますから、先ほど言ったとおり復興、復興のロードマップという形で県では3カ月に1回、四半期に1回進捗状況を見直しまして、それに基づきまして今後の完成見通しなどを公表させていただいております。

直近版では1月に見直していますから、最新のデータにつきましては、ただいま説明した12月末時点での数値が直近数字というふうになっているところです。このようなデータは冊子等でもお配りしていますし、県のホームページ等でも公表しておりますから、もし疑問等がありましたら復興局のほうにお問い合わせいただきたいというふうに思います。

○倉島委員長 よろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか。

○前川委員 5ページのなりわいの再生で主要観光地の入込客数が震災前に比べて112%というのが、この観光地の入り込みというのは観光客なのか、それとも復興関係の仕事をしている人たちの入り込みと混じっているのではないかと。どう考えても観光客が県内どこでもまだ100%まで到達していないですね。私が住んでいる遠野でもそうなのですから、平泉とか花巻とかもそのように聞いておりますが、被災地のほうの観光地の主要なところ14カ所を対象にしてデータをとったのでしょうか。この辺ちょっと何か不思議なのですが。

○商工企画室阿部主査 主要観光地、主な県内の観光地への入り込み数を集計したものでございまして、確かに震災前に比べ112%と増えておりますが、特に昨年度でありますと県北地域における「あまちゃん」効果で、観光客が多く伸びておりまして、総体としては震災前の水準を上回っているというふうな状況でございます。

○倉島委員長 ほかにいかがでしょうか。3カ月ごとに更新されているということですので、よろしくお願ひします。

ほかにございませんでしょうか。

「なし」の声

○西出委員 委員長、済みません。その他ということで発言させてもらってもよろしいですか。

○倉島委員長 はい。

○西出委員 県立大学の西出でございます。私は、現在政策評価の専門評価委員会のほうの委員長をさせていただいておりますが、大体ここで四、五年ですか、ずっと委員にさせてもらっておりまして、あえて今日申し上げたいことがありまして挙手させていただきました。

具体的にどういうことかと申しますと、政策評価の担当というところで大規模等々は割愛されることにもなろうかと思いますが、全部局を横断して指示をする立場である知事、副知事等々に対して是非とも申し上げたいと思うのです。

それは何かと申し上げると、ここ数年やはり見ていると政策評価レポートが毎年出ていますけれども、内容的にどうなのかということなのです。私どもの視点としては、それが

内容改善に使われているかどうかということで、反映状況等々というところが把握できませんけれども、説明責任という意味で見ると、内容的に満足できるものかどうかというのは疑問があるわけです。

まず、第1としてどういうことかということ、毎年毎年そう政策、施策は変わらないだろうというところがあるのですが、政策評価レポートを毎年度出す以上は、前との違いというものを明記してもらいたいわけなのです。極論を言えば、昨年度と今年度、もしくは前年度と当該年度、翌年度等々の中身がどれだけ変化しているのかということ、そこが見えてこない、これが第1点。

第2点目は、進捗が思わしくないと評価レポートに書いているのであるならば、その原因を具体的にレポートの中で記載して欲しいということです。でなければ、読んでいる立場としては何が問題なのかというのが全く見えてこない。こういうのは、なかなか行政に携わる方々の立場としてこういうレポートをつくるというのはかなり労力を必要としますし、時間もかかると、そういう立場からいうとこういうことを申し上げるのも心苦しいところがあるのですが、読み手、いわゆる県民としての読み手の立場としては、やはり毎年毎年どのように展開して問題があるのかということが見えるツールというものを必要とするわけなのです。たとえレポートというのが余り読まれていないというものがあっても、いざ読もうと思ったときに情報としてしっかりしたものを出していく、出すべきであるということが説明責任としての政策評価の存在意義というものがあると思います。

したがって、話を戻すと、なかなか日頃、もちろん復興関係等々も踏まえて忙しい中、このような政策評価のレポート等々を含めて時間と労力がかかる作業にどこまで従事できるかというものは現実の問題としてあるにしても、やはりそこをトップのリーダーシップをもってしっかりと県民の説明責任として果たせるようなもの、果たせるというか、より具体的に説明をするというような視点でもって記述をする、そういうところは是非ともトップのほうから随時、各部局に対して指示と申しますか、御自身のチェックも含めて、このレポート等々の内容についてよりクオリティーの高いものを県民に対して公表していただきたい。そのためのイニシアチブをぜひともとっていただきたいと、このように考えている次第です。したがって、この話、今申し上げていることをぜひともトップの方々にお伝えいただければと、このように思う次第です。

以上です。

○倉島委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか、ただいまのこと、かなり大きな問題かもしれませんが。

○菊池評価課長 御意見承りました。毎年毎年評価レポートを出してございまして、専門委員会の方々にはお配りして意見をいただいておりますが、確かに内容的にどうなのかなどというのが含まれているというのは御指摘をいただいて、私どもも見直しつつあります。

今いただいた意見のように、確かに読み手の立場に立って書くことが必要であり、要は評価調書をつくるのが目的ではなくて、それをきっかけとして現状を押さえて、どう見直していくかというのが目的なはずなのですが、そのところが十分伝わっていない部局も

あるというような御指摘を委員からいただいております。そのあたりは幾らかでも読み手に立ったものになるように、課題だと認識していながら翌年度の方向に何も出てこないものもあり、そういったものはきちんと整備していくようにいたします。貴重な意見、ありがとうございました。

○倉島委員長 県の組織機構にかかわる問題でもあるかと思えますけれども。ほかにかがですか。

「なし」の声

○倉島委員長 よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして議事を終了させていただきます。御協力ありがとうございました。進行を事務局のほうにお返しいたします。

○菊池評価課長 倉島委員長、ありがとうございました。

4 閉 会

<事務局から閉会宣告>